

<b>第6回 小平市子ども・子育て審議会 会議要録</b>	
日時	令和2年2月19日（水） 午後1時30分～4時00分
場所	小平市役所 6階 大会議室
出席者等	子ども・子育て審議会委員・・・14人（欠席2人） 傍聴人・・・7人
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度児童館の事業計画（案）について</li> <li>・令和2年度学童クラブ事業（案）について</li> <li>・令和2年度小平市子ども家庭支援センター事業計画（案）について</li> <li>・第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（案）について</li> <li>・第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（案）</li> <li>・第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果</li> <li>・家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行について</li> <li>・子育て世代包括支援センター事業（母子保健型）の開始について</li> </ul>
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>（1）令和2年度児童館の事業計画について（案）</li> <li>（2）令和2年度学童クラブ事業について（案）</li> <li>（3）令和2年度小平市子ども家庭支援センター事業計画について（案）</li> <li>（4）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（案）について</li> <li>（5）家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行について</li> <li>（6）子育て世代包括支援センター事業（母子保健型）の開始について</li> <li>（7）その他</li> </ul>
<b>上記内容についての意見・質疑応答</b>	
<b>（6）子育て世代包括支援センター事業（母子保健型）の開始について</b>	
委員	<p>子育て世代包括支援センター事業について、拡充する事業内容がいくつかあるということで、女性としてはとてもありがたいと思っている。</p> <p>妊娠期の体調は様々で、自由に仕事をできる人もいれば、全く家から動けない、入院する人もいる。東部・西部市民センターでの妊婦面接相談は予約制と聞いたが、予約していなくても空きがあれば入れるというような幅を持たせられると、妊婦としてはありがたい。そして、家から一歩も出られないくらいの方に関しては、何か救済の手があるのかどうか伺いたい。</p>

事務局	<p>事前予約にした理由は、保健師・助産師が健康センターにしか常駐していないからである。日付を決めて健康センターの保健師・助産師が行って、面談をすることを予定している。こちらの方でも、事前準備をして書類を持って行くことになっているので、現在のところは事前予約での対応を考えている。運用する中で、幅広く対応できれば検討していく。</p> <p>体調等で自宅から出られない妊婦の対応だが、助産師が訪問している場合もあるので、今後も同様の対応を考えている。</p>
委員	<p>訪問での妊婦相談の対応もしているということだが、それは利用者側から問い合わせをしないと対応してもらえないのか。それとも面談ができていない人に市役所側からある程度声掛けをしているのか。</p>
事務局	<p>現在は、母子手帳を発行するときに健康センターに来ていただくという状況で、その後の相談等については訪問で対応している。今後、色々な形について検討が必要とは思っている。</p>
会長	<p>新規事業ということなので、運用の中で色々と柔軟に対応いただけることもあるかと思う。</p>
(1) 令和2年度児童館の事業計画について(案)	
	<p>特になし</p>
(2) 令和2年度学童クラブ事業について(案)	
委員	<p>建設中の八小学童クラブと十二小学童クラブは民営なのか。</p>
事務局	<p>公設民営になるのか公設公営になるのかは、これから検討する。</p>
委員	<p>学童クラブの新設は理解するが、働く方が随分増えており、幼稚園も2号認定がたくさん増えている状況で、幼稚園の2号認定の方は学童クラブに入れるのかという不安をいつも抱えている。</p> <p>ここで令和6年度までの方向が出ている。学童クラブの需要は増えると思うが、学校に増やしていくのか、それとも学校にできなくなった場合にどういう考えを持っているのか、見通しを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>学童クラブはこれまでも、1年生から3年生のお子さんについては待機を出さずに全員入会することができ、今後も待機を出さずに全員を預かる方針は変わっていない。保護者に説明する機会があった場合は、このように伝えていただきたい。ただ入会には、週に3日以上働いていて、その働いている時間が1日4時間以上、仕事の終わりが午後2時にかかっているのが要件となる。施設は入会の人数が増えてくると狭くなるので、学校の施設を活用するとか、建設をしていくとか、施設の整備も考えていくことになる。</p>

委員	<p>保育園や幼稚園もそうだと思うが、学童クラブの預かりの方が早く終わってしまうので、この時期になると、保護者から、仕事の働き方を変えないと不安だとの声を聞くので、数の確保と同時に、ニーズに合った開所時間など内容も充実していただきたい。</p>
事務局	<p>学童クラブの開所時間には2種類あり、18時までの公設公営のクラブと、19時までの公設民営クラブがある。現時点では、全クラブを19時までというのは難しいが、学童クラブの新設時を捉えて、19時までの延長保育への対応に努め、順次だが増やしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>保護者の中で条件に縛られて使いづらいという声があるイメージがある。他の市や区の話を見ると、一日だけとか、学校に何時までいられる、という使い方ができるところがあると聞くが、検討は可能なのか。</p> <p>もう一点は学童クラブの質についてだが、利用していない保護者にとっては、質が見えづらいという点があって、中でどういう過ごし方をしているのか、何が提供されているのかが見えないから、不安という声も聞く。市から監査のようなものが入っているのかということと、これから利用したいという保護者が簡単に知ることができる方法があるのかが気になっている。</p>
事務局	<p>他の自治体では一日だけの預かりがあるということだが、小平市のクラブは利用人数が非常に多くて、どのクラブも定員をオーバーしながら受け入れている状況がある。この先、人数が減ってくる状況があれば柔軟な運営も検討する余地はあるが、今のところは条件に合う方のみの利用となる。その他、放課後子ども教室や児童館など、学童クラブ以外の放課後の居場所の利用も検討いただきたいと思う。</p> <p>また、学童クラブの見学は事前に連絡をいただければ日程を調整して可能であるが、そのことをホームページ等で大々的にうたっている訳ではない。学童クラブのことを知っていただけるよう、今後検討していきたい。</p> <p>35クラブのうち25クラブは直営クラブであるため、日々の報告を受けながら、定期的に担当課が巡回して指導・監督している。指定管理クラブについては、毎月1回調整会議に施設長を集め、業務内容の報告と書類の提出を受けチェックを行っている。年2回、保護者へのアンケートを行って、保育内容に対する率直な感想を聞いているので、指導監督は十分に行っていると考えている。</p>

委員	<p>私の子どもが学童クラブを利用しているが、クラブによって、外遊びができるできないといった違いが多少ある。保護者からの要望で外遊びができるようになったが、やはり日常過ごしている所なので、クラブの個性を出すことも必要だが、外遊びの可否などはある程度均一化していただきたい。</p> <p>アンケートを年1回行っているということだが、民営のクラブに対してということか。</p>
事務局	<p>該当クラブについては指導を行い改善している。</p> <p>保育内容については、指導員の定期的な人事異動等を通じて、どのクラブも同じになるようにしている。また、アンケートは民営クラブだけで、公設民営のクラブは指定管理の評価の中で行っている。</p>
事務局	<p>補足だが、先ほど個性という話が出たが、指導員の経験年数などによる指導方法の違いが出ないように、事務連絡会を月1回設けており、研修も数多く行っていて、クラブによって違いがなく、保育の水準が同じとなるように取り組んでいる。</p> <p>ただ、学校によっては校庭が離れているだとか、設備的に校庭が使えないといった事情があり、一概に同じことができるわけではないが、基本的には指導員全員に研修を受けてもらって質の向上を図っている。</p> <p>アンケートだが、指定管理については、保護者の意見、アンケート結果を踏まえて、実際にどういうことができているか、年2回チェックをして評価をしている。直営についても、日々確認をしているが、保護者で組織される父母会がアンケートを行っているので、子育て支援課にもアンケートの結果をいただいて、事業への反映に努めている。</p>
委員	<p>新設の八小と十二小の定員は20名程違うが、その差は何からきているのか。</p> <p>また、子ども達が児童館も利用できるという話が出たが、児童館は3館しかなくて遠くて通えるような地域でない方の方が多いと思うのと、冬場などは授業が終わってから利用できる時間がとても短いので、それでも十分と考えるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>八小と十二小の定員の違いは、入会児童の予測に基づくものである。この先5年でどのくらいの入会が見込まれるのかを推計したところ、十二小は8～10名程度の不足、八小は20名程度の不足が見込まれる、ということで、その推計を反映させて八小の定員の方が大きくなっている。</p> <p>児童館については、ミニ児童館の位置づけで行っている子ども広場が地域センターなどで活動しているので、児童館が遠いお子さんには子ども広場をぜひ利用していただきたい。</p>

委員	子ども広場は、放課後の小学生も対象なのか。
事務局	子ども広場は、午前中は乳幼児親子の利用が多いが、午後は小・中学生が活動する場となっている。現在は児童館3館と広場6か所、計9か所あるので、おおむね小学校2校に1か所の割合で、子ども達が歩いて来られる距離と捉えている。地域センターには遊戯室等もあり、様々な放課後の居場所があると考えている。
委員	働く以上学童クラブに入れなければいけないが、学童クラブの情報が事前に得られず、一体どんなところなのかが分からない。他の親と話しても、不安な気持ちがどうしてもぬぐえず、もっと分かりやすく説明するとか、学童クラブの様子を見られることをホームページで紹介するとか、入会者の不安を減らす取組をしていただきたい。
事務局	ホームページの充実等によって、情報提供を図っていききたいと思う。
委員	居場所として放課後子ども教室があるという話があったが、携わっている学校では空き教室もなく、使える教室の調整をしないと開催が難しい状況になっているので、そういう面で学童クラブももう少し充実させてほしい。 もう1つ、民設民営の件で令和2年度の予算に計上するとのことだが、具体的にどういうことをするのか。
事務局	放課後の安全な居場所として、色々な選択肢があるということで、放課後子ども教室、児童館、子ども広場、学童クラブを挙げさせていただいたが、学童クラブは就労など保育要件が必要なもので、他と違いがある。充実という意味では、1～3年生についてはとにかく待機児童を出さない。これは他市でも実現できていないところがあるので、私どもとしてはこれを継続していくことが充実であると考えている。 それから、民設民営学童クラブについては、予算審議がこれからなので、詳細は議会の議決を経てからとなる。名称が民設民営学童クラブとなっているが、色々な放課後の居場所の選択肢の一つに加わると考えていただきたい。要件を備えれば、保育に関しては既存の公設学童クラブと同じであるが、基本的にはまた一つ、新たな居場所として提示できるものであると考えている。
委員	学童クラブの指導員が、障がいがある子どもに関して勉強しているということを知り、障がい児を育てている親としては、障がいのある子の居場所が細分化されて、地域で居づらくなっている中でとてもありがたいと思ったが、具体的に発達障がいの子以外に、知的障がいや肢体不自由の子どもに対する勉強もされているのか、具体的な学びの内容を教えてください。

事務局	<p>毎年研修として行われているものは、発達障害の子どもについてで、これは学童クラブにいる子の障がいの中で、一番多いと思われるのが発達障がいであるためである。研修の内容としては、希望するクラブに臨床心理士が半日行って、その子の様子や保育の仕方を見て、クラブが終わった後で指導・アドバイスするもので、10数クラブで行っている。</p> <p>それから全体研修では、巡回前と後に、接し方や事例を挙げて外遊びの可否などアドバイス等をもらう研修を年2回行っている。</p>
委員	知的障がいのある子や肢体不自由の子に関するものではない、ということか。
事務局	障がい児の全般の研修は、放課後児童支援員研修という、都で行っている研修があり、そちらに全員最低1回は派遣しており、専門員から研修を受けている。そちらで障がいの特徴であるとか支援の方法を一通り教わっている。
会長	引き続き、量の確保はもちろんだが、質の向上、様々な努力、充実を図っていただくことと、そのためにも情報の伝え方など、色々工夫していただくことを要望する。
(3) 令和2年度小平市子ども家庭支援センター事業計画について(案)	
委員	幅広く活動されているということで敬服した。多年齢に渡って相談を受けているとのことだが、立地からするとなかなか利用しづらいという方や子どもも多いと思う。現在出張で行っている事業としては出張広場のみになるのか。
事務局	広く対象とする事業は出張広場である。ただ、子ども家庭支援センターで広場を担当する職員も、支援が必要な家庭を訪問することがある。
委員	小平市は広いので、家庭支援センターの立地を考えると、例えばティーンズ相談とか不登校の子どもに対してとか、もう少し幅広く出張の事業を検討していただけると、利用しやすくなる方もいるのではないかと。
事務局	<p>立地については、市境ということで、子育て交流広場を利用したい方にとっては使いづらいのではないかと、開設当初から言われていた。ただ、子ども家庭支援センターでは、やはり児童虐待に対応する機能が一番重要であり、ワーカー達が学校や保育園に出向いていくことを基本としている。</p> <p>また、ティーンズ相談室も、本人や家庭が問題を抱えているなどで学校に通えていないお子さんの利用が多くなっている。事業を開始する時にもお子さん自身の意見を聞き、友達同士顔を合わせたくない、ここに来ていること、相談していることを知られたくない、という声があり、児童館などには行きにくいということで、むしろ落ち着いた感じで関係者とあまり顔を合わせないような環境が、あゆみ教室などと同様に、お子さんや家庭に適していると思っている。</p>

委員	<p>ティーンズ相談室や出張広場は、主に学校に行けない子ども達が学校に行くことを目指した事業と捉えていいのか。</p> <p>前回の審議会であゆみ教室の話が出た時に、同じような質問が出たと記憶している。その時に、学校に復帰することを目指しているとの回答だったと思うが、様々な理由で学校に行けない子ども達について、学校に行かないことも選択に入れていくという世の中の流れが出てきている中で、学校に戻すことを目的とした支援以外ないということには少し不安がある。フリースクールなど、学校に復帰しなくても、子ども達が育っていく居場所があるのか、またはそれを整備する意向があるのか聞きたい。</p>
事務局	<p>出張広場は、子ども家庭支援センターが主に乳幼児のための広場を出張でやるものである。ティーンズ相談室は、不登校の方が実際には多く利用されている現状があるが、不登校のために特化したものではない。虐待など色々な困難を抱え、学校でも関係性が作れなかったり、家庭も安心して過ごせるような環境ではないお子さんが来て相談員と関わることで、自立を目指していくものである。</p> <p>そのため、不登校のお子さんの復帰支援ではない。自分で改善に向かっていけるように寄り添う形で支援している。</p>
事務局	<p>あゆみ教室には、現状として学校に登校せずに長期にわたって通っているお子さんも何人かいる。学校への復帰を前提にしていることがお子さんへの支援なのはもちろんだが、教育委員会は学校の改善を指導できる立場にあるため、お子さんたちが学校に復帰することを目指しながら、学校が変わらなければいけないこと、教員が改善しなければいけないことを指導するという前提で、子ども達を支援したいと考えている。</p>
委員	<p>具体的に学校側に何か意見して変わった例はあるのか。</p>
事務局	<p>個別の案件なのであまり詳細には言えないが、音や物に過敏に反応するお子さんに関して、一緒に緩衝材を見つけて音が響きにくい教室に変えてもらったことはあった。心理士の助言等を受けて、その子が学校に戻るにあたって、クラス替えでの人間関係の配慮など、お子さんの了承を得た上で、保護者を通して、学校が変えられる環境について直接学校に伝えられたことがあった。</p>
委員	<p>ティーンズ相談室は、19歳までが対象と思うが、20歳になった後も継続してつながってもらえるか、それとも別の機関などつなぎ先があるのか、教えていただきたい。</p>

事務局	<p>現在、19歳以上の方々の利用もある。対象年齢を超えたらすぐに利用できません、というようなことはしておらず、ケースによっては継続して関わっている。</p>
(4) 第二期小平市子ども・子育て支援事業計画(案)について	
副会長	<p>学童クラブについて、先ほどの(2)の話の中でも、民設民営については令和2年度に補助金を考えているという話があった。スポーツをしながらとか、塾のように勉強を見ながらとか、そういったことに補助を出すというのはどういった狙いなのか、それから、どんな風に検討していくのか、その考え方がなり、将来的、長期的にはどういう風に考えて補助を出していくのかを教えてくださいたいのが一つ。</p> <p>それから量の見込みと確保策のところ、従前から学童クラブでは4、5、6年生については子ども広場や児童館での対応を中心にしてきたのでこのように書いてあると思うが、わざわざ量の見込みという形で項目を出して数値を上げることには何か今までと違った考え方があるのか。そういったことを踏まえて、市は今後4、5、6年生についてどうしていこうと思っているのか教えてくださいたい。</p>
事務局	<p>まず民設民営クラブの狙いとしては、多様な体験活動を子どもに提供することである。日常の保育の部分に関しては、児童福祉法で定められる放課後児童健全育成事業ということで、市の基準条例に即して運営を行うもので、公設と民設民営のクラブで大きな違いはない。保育以外の、スポーツや学習をはじめとする体験活動を子どもに提供するという部分で、民設民営の方が公設の学童クラブよりも多様で、また事業者の判断で柔軟に行える点が最大の特徴であると考えます。</p> <p>多様な体験活動の部分については、想定としては各種スポーツとしては球技、ダンス、体操など。学習としては学校の勉強や英語など。アート活動としては絵画や音楽など。その他の活動としてはクッキングなどが想定されるが、どのような活動をどの程度実施するかということは、実際の事業者の選択、提案になると考える。</p> <p>それから、第二期の計画で4、5、6年生の量の見込みの書き方を変えたことに関しては、市の考え方を転換したものではなく国の指針によるもので、今までは高学年の一括りで良かったところ、4、5、6年生それぞれを数字で示すという指示があり、それに従って数字を明確に示した。その上で3年生までは待機を出さずに学童クラブで受け入れることとして、4、5、6年生についてはこれまで同様、子ども広場や児童館、放課後子ども教室等、放課後の居場所を中心に対応する。</p>



	<p>学童クラブにおける高学年の受け入れは、障がいのあるお子さんはこれまで通り6年生まで全員受け入れる。計画にも示したとおり、条例で定める定員を一定数上回っているクラブについては従来の対応をして、定員を下回っている場合には柔軟な運営を検討していく。</p>
事務局	<p>補足だが、民設民営学童クラブについては、父母連からは多様な活動体験の場を子ども達に提供してほしいとの要望をいただいております、それらを公設のクラブの中で応えるのは難しいということで、担当課では他市の事例等を情報収集などしている。</p> <p>そもそも学童クラブは公設でなくても民間でも自由に開設でき、市内にもスポーツクラブが放課後の子どもを預かっていたり、学習塾が長く預かっていたりという所があると捉えており、国の基準等に合致するものに補助金を出していきたいと考えている。</p> <p>高学年の受け入れについては、他市では資格要件を本市のように3年生までではなく6年生までとして申し込みを受け、実際には低学年の子を優先し6年生が待機になっているという状況がある。本市においては3年生までは確実に受け入れることで進めている。</p> <p>保護者も、子どもが高学年になると、計画的な過ごし方というか、学童クラブがなければ習い事をはじめて、プールや学習塾等に通わせたりしながら過ごしていると聞いている。今後も3年生までは待機を出さないことを基本とし、クラブによって定員を割る場合には柔軟な対応を検討したいと考える。</p>
副会長	<p>公平性を欠いてはいけないとは思いますが、空きがあつたら4、5、6年生の子どもさんでも預かることがある、将来的にはそういう事も考えられるということか。</p>
事務局	<p>今は、定員をオーバーしている状況であるが、そもそも国の児童福祉法においては6年生までと明記されているので、少子化の影響に向けてどういう風に進めていくか考えていきたい。現状での私たちの姿勢としては、低学年で待機を出さないための対応を図っていきたい。</p>
委員	<p>民設民営の案は今のところはないということか。</p>
事務局	<p>予算が議決されて執行可能になるということがまずあり、その次に事業者が提案してくる話で、私どもとしては補助金の枠の用意はするが、事業をやりたい事業者が出てこないと難しい。どういう事業が展開されるかもまた事業者の自由なので、複数上がってくればより良い方を選定していくことになると思う。さらに、その事業者の提供するサービスを受けるかどうかは、あくまで保護者の選択になる。保育要件があつてそれを使う方については、事業</p>

	<p>者の方で保育の基準をきちんと満たしていれば、補助を出すことによって保育分については同じとなり、さらにスポーツクラブなど色々な付加機能があると思うので、それは利用者の負担で使う形になると考えている。</p>
委員	<p>学童クラブの高学年の保育の件だが、4年生以降、長期休暇、特に夏休みの預け先がなくなる。4年生だと一人で置いておくのは不安だとか、預け先がないという声もあり、せめて午前中だけでも預けられる場所があると働く方としては安心と思うが、そういったことはどうか。</p>
事務局	<p>夏休みの利用状況だが、確かにお盆の時期は大変利用率が低くなる傾向があるが、実は学童が一番混んでいるのは夏休みである。4月はそこそこ多く、5～6月とどんどん人数が増えて、7～8月の利用が多い。夏が終わると退会が増え、3月が一番少ないというのが10年繰り返されているパターンで、夏の利用が一番多いのが現状。出席率はお盆の時期が一番少ないので、トータルで見れば例月よりは10%前後利用率が低い、保育する側も交代で夏休みをとったり、人の確保が難しいということがあるので、夏休みだけ入っていたくのはなかなか難しい状況である。</p> <p>そういった一年の流れとは別に、全体的に人数が減ってくれば施設に余裕が出てくるので、検討の余地はあると思うが、現段階で夏休みだけというのは難しい。</p>
委員	<p>学童クラブ、保育園、大きく言えば公立の学校においてもそうだと思うが、子どもがもう少し選べるような枠組みというか、選択肢があるようになっていくと、子どもが行きやすくなる印象を持つ。</p> <p>日本では公立の学校を選ぶことができないが、海外では選ぶことができる。その限られたコミュニティの中で、生きづらさを抱えた子どもには不登校しか選択がない。さらに学童クラブとなると、放課後もコミュニティに縛られなければならない。実際に学童クラブに通っている子が「行きたくない」と言ったから、辞めざるを得なくて仕事を辞めたという保護者もいる。そうなった時に、例えばワンデイの使い方ができる場所やプレイパークなど、違うコミュニティを子どもに提供してあげられると子どもの生きづらさが減っていくと思う。</p>
事務局	<p>民設民営の学童クラブは、特に学区に関係なく利用できると思われるので、選択肢の幅は広がるものと捉えている。</p>

事務局	民間の事業に補助を出すという制度なので、民間がどこでどのように事業を展開するかについて、制約するものではない。まだ来年度の予算が固まっていないが、放課後の居場所として子ども広場や学童クラブ、新たなものとして民設民営学童クラブと、選べる居場所、環境を整え、多様なニーズに応えられるように努めていきたい。
事務局	できるだけ多くの選択肢が提供できればそれが一番望ましいが、様々な制約があり全ては叶えられないことを心苦しく思うが、キーワードとして「子どもの視点」というところには常に気を付けていく。 例えば延長保育にしても、子どもからしたらどうなのかという視点で常に見ていく必要がある。親のニーズに応えることも大切だが、子どもの立場からはどうだろうということを押さえながら施策を進めていきたい。
委員	民設民営の学童クラブというのは、既存の学童クラブの中で多様なニーズに応えるのではなく、別の施設ができるということか。
事務局	既存の学童クラブが転換するわけではない。
委員	そうすると、民設民営のサービスに補助金を出すイメージを持つが、そのような理解でいいのか。
事務局	民設民営の学童クラブは、児童福祉法の放課後児童健全育成事業という公的な事業であって、その部分の一定の公益性に対して補助金を出すものである。
委員	市としては今後、民設民営の学童クラブを増やしていく考えなのか。多様なニーズに応えるということも分かるが、今の学童クラブの充実が必要だと思う。 学童クラブは学校の中にあるが、塾のようなものもまた違う所に建てられ、これにも補助金が出て子育て支援に位置づけられるとなっていくと、親は多様なニーズに応じてもらえる方に傾いていくのではと思う。 民間を入れて、その日やりたいことを選択してもらい時間を過ごす、というようなところを増やしていこうとしているのか、それとも今の学童クラブを維持するのか、詳細はまだこれからかと思うが話せる範囲で聞きたい。
事務局	公設の学童クラブについては、学区の中で待機を出さず1～3年生で希望する方は全員受け入れる、という形に変更はない。民設民営の学童クラブに関しては、既存の学童クラブプラスアルファということで、多様な活動・体験の希望がある方、公設の学童クラブでは物足りない方については、より選択肢があった方が子どもも選べるし、子育て支援の推進につながると考える。

委員	公立の学童クラブに籍を置いて、週のうち何日か民間の所に行けるというシステムなのか、それとも民間なら民間に入るといえるようになるのか。
事務局	補助制度上は放課後児童健全育成事業ということで、公設も民設民営も補助を出しているの、両方に登録されると補助金が二重ということになることから、どちらか一方を選んでいただくことになると思う。
委員	公設公営が民営化していくということは今考えていないという認識でいいのか。
事務局	その認識でいる。
委員	計画の第2章で気になるところがある。例えば就学前児童だと母数が1270、平成30年だと1123になっているが、別のページを見ると数字が違っている。母数が入っているところと入っていないところもある。また、平成25年度との比較でプラス14.2%と記載があるが、別のところでは25.1ポイントとなっており、ポイントが正しいと思うが、精査していただきたい。
事務局	全問答えた方、答えていない方がいて、ご指摘の設問については答えていない方がいたので、母数が違っている。製本に向けて、もう一度精査する。
委員	他県で民営学童クラブでやっているところがあったが、内容的には公設公営と変わらず認可を受けて既定の範囲内でやっていた。ただ、学校の場所を使っていないので、敷地が広かったり、活動に独自のものがあったりするのだが、基本的には変わらず、全然違うものが参入する訳ではないと思う。
事務局	学童クラブの事業自体は第二種福祉事業だが、事業主体は社会福祉法人になるのか株式会社など民間になるのかは募集してみないと分からない。基本的な保育の部分に関しては、市の条例に基づいて運営していただくものである。
委員	第4章の子ども・子育て支援新制度のところ、幼保一元化の考え方が、子ども・子育て支援システムと、子ども・子育て支援新制度では違うと理解している。後段の記述から、対象年齢によって違う在籍場所でフォローしていくのが、市としての考え方と読んだが、市の財政的な問題や人口の見通しなどを踏まえてのこととは思いますが、国が示している本来の子ども・子育て支援新制度がこういうことを求めているのではない、ということを押さえた上での表現なのか。

事務局	<p>平成27年度に子ども・子育て支援新制度が始まり、国から幼保一元化の考えが示されている中で、未就学児に対する教育保育を整理し、確保方策としてまとめた形で整備していこうとしている。</p> <p>0～2歳児と3～5歳児は、現実的な整備の方策に沿って、それぞれの年齢に対応する施設の名称を書き分けているが、基本的には幼保一元化の考え方には変わりはない。</p>
委員	<p>言いたかったことは、実際に保育園・幼稚園に入って、入園から卒園まで同じ施設に通いたいというのが保護者・子どもの一番の思いと思うので、状況に応じて既存の施設を利用することも必要なことだとは思いますが、転園して対応するのではなく、入園から卒園までという希望があれば、その保護者のニーズに合わせるべきということをきちんと押さえてほしい。</p> <p>幼保一元化の考え方とちょっと違うのではと思う。</p>
事務局	<p>ご意見を参考にさせていただきます。</p>
委員	<p>パブリックコメントの実施結果で、市民の意見に対してどう判断したか明記されているのを見て、すごく分かりやすいと思ったが、この審議会で審議された内容や委員の意見に対してどう判断されたか、自分達の意見がどう受け止められているのかが実感として分からない。</p> <p>パブリックコメントのように一つ一つとは言わないが、意見がどう捉えられてどう使われたかを教えていただけないのか。</p>
事務局	<p>市の審議会の多くは、個別の問題について諮問してそれに対する答申をもらう、という形ではない。当該分野に興味・関心、見識のある方を選考させていただき、関係機関の方にも加わっていただき、会議として設置して、意見をもらう形なので、それを採用した、またはしていないとか、市として一つ一つどう判断したかということではなく、いただいた意見を市として受け止めて、最終的には市が作り上げていくものである。委員から様々な材料をいただいて、庁内の調整を図っていく段階では、予算など制約もあり、取り込めないものもある。それらについて一つ一つどう考えたかというところを知らせるのは難しいと思う。</p> <p>会議内容を要録にまとめ、市民が見られるようにホームページで公開していく、このことでもって、皆さんの意見が市民に伝わるように努めていく。</p>
委員	<p>自分の意見に返答がほしいということではなく、意見がどういうふうに反映されたのか、委員としての立ち位置が見えづらくなってしまった。</p>
委員	<p>要はプロセスが見えれば、自分たちが発言した意味、会議の意味が自分たちの中でしっくりくる。</p>

事務局	審議会で様々な意見をもらい、質問にはその都度回答し、事業の趣旨などへの理解を深めていただきながら、今回の計画案を完成させた。素案の段階から中身を深めてこられたと思う。今後、より議論を交わす形に配慮して審議会を運営していきたいと思う。
会長	以前の発言でうまく受け止められていないと思うものが具体的にあれば、まさにこの場で委員同士、ていねいに議論していく必要がある。担当課にもこのことを認識していただいて、新年度に臨んでいただきましょう。
(5) 家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行について	
	特になし
(7) その他	
	特になし